

平成29年度 福島小学校学校評価結果の報告

1 これまでの経過

① 5月18日 学校長の経営方針をもとにした重点目標の達成、努力事項に対する具体的取り組み事項の検討 (校内研修)

- * 昨年度の学校評価の結果を考慮し、六つの重点事項及び努力事項達成のための具体的取り組み事項について、全職員を校務分掌を考慮した6グループに分け検討。
- * 具体的取組事項別紙参照 (前期分)

② 10月19日 中間の自己評価と具体的取り組み事項の見直し(校内研修)

重点目標	努力事項	具体的取り組み事項(前期)	1評価(%)	2評価(%)	3評価(%)	4評価(%)	マイナス評価	プラス評価
① 確かな学力を身に付けた子ども	分かる授業の推進・充実	・板書・発問を工夫する。	0%	17%	62%	21%	17%	83%
		・授業の中に自分一人で考える場を設定する。	0%	7%	69%	24%	7%	93%
		・定期的(ノートチェック)をし、よいノートを紹介する。	7%	29%	46%	18%	36%	64%
	学習意欲の高揚、学び方の習得	・児童の実態に合った課題設定をし、それを解決していく授業を行う。	0%	14%	75%	11%	14%	86%
		・体験的、作業的な活動を取り入れる。	0%	11%	61%	28%	11%	89%
		・「0分スタート」と「終了時刻」の徹底を図る。	4%	14%	46%	36%	18%	82%
	読む・書く・話す等の言語活動の充実	・音読や読書の機会を増やす。	0%	11%	61%	28%	11%	89%
		・各教科等で学年に応じた話し合い活動(ペア・グループ・全体等)を取り入れる。	3%	21%	62%	14%	24%	76%
		・各教科等で学年に応じた書く活動(学習のふり返り、日記、作文など)を取り入れる。	0%	22%	63%	15%	22%	78%
	ICTを活用した効果的な指導	・ICTの使い方を工夫し、充実させる。	0%	21%	61%	18%	21%	79%
・板書、ノート、実験等とデジタル機器との役割を明確にする。		4%	22%	59%	15%	26%	74%	
・伝え合いの場で積極的に活用していく。		14%	21%	54%	11%	36%	64%	
家庭学習のすすめ	・「家庭学習の手引き」を活用したり、児童の具体的な実践例を紹介したりする。	8%	40%	44%	8%	48%	52%	
	・今日学んだ学習内容を復習する課題をかす。 ・今日学んだ学習を発展・深化させた自主勉強をすすめる。	0%	4%	68%	28%	4%	96%	
			12%	36%	48%	4%	48%	52%

* 10月上旬に自分たちの取り組みについて各自、中間自己評価を行い、集計結果をもとに具体的取り組み事項の見直し(10/19)を実施した。(課題別グループ協議)
内容
(1)集計結果の感想や意見交換
(2)継続して取り組んでいく事項
(3)見直しをしなければならない事項の確認と精選・改訂

* 具体的取組事項別紙参照(後期分)

③ 11月中旬 アンケート内容の検討(学年別)

* 年度末自己評価をおこなう際の参考となる児童・保護者アンケートについて、学年別各グループで内容検討。

④ 12月上旬 保護者・児童アンケート実施

⑤ 1月中旬 アンケート集計・分析(学年別)

⑥ 1月下旬 年度末自己評価の実施

⑦ 2月15日 来年度の課題と改善策の検討(校内研修)

⑧ 3月5日 学校関係者評価実施(評議委員会)

⑨ 3月9日 学校評価について職員会報告(職員会)

2 学校経営基本方針

(1) 学校教育目標

「就将」の精神を基盤として、

確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

(2) 重点目標

① 確かな学力を身に付けた子ども

② 心豊かな子ども

③ 心身ともにすこやかな子ども

④ 一人一人に応じた特別支援・生徒指導

⑤ 保護者・地域に信頼される学校づくり

⑥ 教職員研修の充実と協働体制の強化

H29児童アンケート(3～6年生用)				
以下の各項目について「よく出来ている」「大体出来ている」「あまり出来ていない」「出来ていない」のいずれかに○をつけてください。				
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
(1) 学習について				
1	学校の授業はよく分かりますか。			
2	宿題をきちんとしていますか。			
3	家で勉強するときは、テレビ・ゲームなどを消して勉強していますか。			
4	授業中机やべりや手遊びをしないで、落ち着いて学習していますか。			
5	コンピュータ(パソコン)やテレビを使った学習は分かりますか。			
6	授業がはじまるまでに、学習(本やノート)のじゆんびが整っていますか。			
7	学校で、自分の考えを述べて書くことができますか。			
8	地域の人や地域に出でるの学習は、役に立っていると思えますか。			
9	今、学んでいる外国語活動は、将来役に立つと思えますか。(5年生の人だけ答えてください)			
10	読書をしていますか。			
11	学校では、はきはきと音読できていますか。			
(2) 生活について				
1	困っている友だちを助けるなど、やさしく思いやりのある行動ができていますか。			
2	先生や大人には「です」「ます」など、ていねいな言葉が話せていますか。			
3	給食の先生に、気持ちよくあいさつをすることができていますか。			
4	好き嫌いなく何でも食べていますか。			
5	チャイムを守っていますか。			
6	らうかや階段を走らず、右側を歩いていますか。			
7	交通ルールを守って生活できていますか。			
8	毎日、おうちの人や先生、友だちに自分から通んであいさつをしていますか。			
9	交通立降して下る人にあいさつができていますか。			
10	そうじの時間は、静かにそうじをしていますか。			
11	トイレのズリッパをそろそろえたりゴミをひろつたりして、みんなのためにがんばっていますか。			
12	休み時間には、元気に外で遊んでいますか。			
13	何か困ったときに、先生に相談できますか。			
14	学校へ行くのは楽しいですか。			

3 児童・保護者アンケート

全学年の児童，保護者にアンケートを実施した。アンケートについては昨年度との経年比較も出来るようにした。

(1) 児童アンケート集計結果 * 別紙参照

それぞれの質問項目について，よく出来ている・大体出来ている・あまり出来ていない・出来ていないの4段階でアンケートを実施した。また，(よく出来ている・大体出来ている)を肯定的評価(プラス)とし，(あまり出来ていない・出来ていない)を否定的評価(マイナス)とした。

(2) 保護者アンケート集計結果 * 別紙参照

それぞれの質問項目について，そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わないの4段階でアンケートを実施した。また，(そう思う・大体そう思う)を肯定的評価(プラス)とし，(あまりそう思わない・そう思わない)を否定的評価(マイナス)とした。

(3) アンケート結果(児童・保護者)からの考察

特徴

～児童アンケートより～

- ・全体的にプラス評価が増えている。
- ・学校生活を楽しみ過ごしている児童が多く，困っている友達を助けるなどやさしく思いやりのある言動もよく見られるようになってきた。
- ・休み時間に積極的に外で遊ぶ児童が多くなってきており，運営委員会や体育委員会の企画した遊び(週間)にも意欲的に参加するなど多くの児童が運動に好意的に関わっている。
- ・チャイムを守ったり，交通ルールを守ったりすることはよくできており，宿題など与えられた課題にも真面目に取り組むことができている。
- ・コンピューターやTVを使った学習はととてもわかりやすいと感じている児童が今年も多いことがわかる。
- ・給食の先生に気持ちをこめたあいさつができている。
- ・先生に相談できると答える児童の割合がここ3年で一番高くなっている。

～保護者アンケートより～

- ・昨年と比較してほとんどの項目でプラス評価が増えており，上昇傾向にある。
- ・「遊びのルールやマナーを守って友達と仲良く遊ぶ」や「命の大切さや人権を尊重しようとする意識が育っている」と感じている保護者の割合が増えている。
- ・9割の保護者が交通安全に気をつけることができていると感じている。
- ・「毎朝きまった時間に起きる」や「毎朝ごはんを食べる」などはよくできている。
- ・親子で会話する時間がもてている。
- ・地域の施設や人材を生かした学習は役に立っていると感じている保護者の割合が増えている。
- ・PTA活動への参加が91%とここ3年で一番高く，協力的である。
- ・警報発令時など適切な連絡体制の整備のプラス評価も毎年増えており，学校運営への理解を示して下さっている。

課題

<表現力>

- ・3年間を比較すると，できていない項目とできている項目が同じである。特に「学校で自分の考えを進んで言う」が低い。
- ・ペア学習やグループ学習を通して自分の考えを言える場の設定をより多く設ける必要がある。
- ・授業のみならず学校生活のあらゆる場面でお互いの考え出し合う場を取り入れるなど工夫した手立てが必要である。

<落ち着いた生活・規範意識>

- ・学校生活では落ち着いた生活を送ることや規範意識に少し課題がみられる。
「落ち着いて学習」「トイレのスリッパ」「静かに掃除」
「廊下や階段を走らず，右側を歩く」(改善傾向にある)
- ・学校生活を安全に過ごすための規範意識がまだまだ弱いところがある。全職員で共通理解のもと指導を徹底していく必要がある。
- ・前年度，前々年度に比べプラス評価が増えている項目(規範意識)でも，廊下を土足で歩く・

くつのかかとを踏む・帰りの挨拶と同時に教室を駆け出し、大きな音を立てて階段を下りる・言葉遣い等が気になる。手立てとして、・年度初めに指導を徹底する。・学校全体で授業の終わりや帰りの挨拶前に一言、「廊下は歩きましょう」と声をかける。・引き続き運営委員を中心に手立てを考える等取り組む必要がある。

<家庭での読書>

・読書について、学校ではだいぶできてはいるが、家ではあまりできていない。
・社会環境が変化していくなかで放課後に家で読書の時間をとる習慣づくりはなかなか難しい。その分、学校で朝の活動などで読書活動に親しむ時間をつくっているのだから、児童が本をもっと読みたいと思うような手立てをさらに考えていく必要がある。

<防災>

・「防災に関する話し合い」が昨年に比べプラス評価がかなり下がっている。防災についての意識は低い訳ではないだろうが、学校の防災学習で学んだことや避難訓練で実感したことなどを、家庭で話し合えるような手立てを学校や学級でもっとしていくなど啓発活動が必要である。

・家庭でいるとき、登下校のときにどこに避難するのか等家庭でしっかりと話しておくことは大切なことなので、機会あるごとに発信していきたい。

<手伝い>

・「きめられたお手伝いを責任をもってする」が低いのも気になる。家族のためにみんなのために進んでお手伝いのできる児童に育てたい。

<その他>

・プラス評価が高くても「よくできている」を100%めざすべきものがある。基本的なことであるので指導を徹底し、学校のルールとして「授業の準備」「チャイムを守る」は「よくできている」にしたい。

・家庭学習についてはきっちり取り組んでいる児童がいる一方で、ながら学習になっていたり登校後に行ったりするなど取り組み方に課題がみられる。

・あいさつ、早寝早起きといった基本的な生活習慣にもやや問題がある。特に夜寝る時間についてプラス評価が60%とやや低いが、家庭の事情もあり難しい問題である。引き続き生活の改善について呼びかけていきたい。

・保護者は学校教育に対して関心が高いことがわかり、児童にも、よりわかる授業、そして楽しい授業になるよう努めていく必要がある。

4 自己評価

(1) 自己評価結果

教員には、学校の重点目標に照らし合わせ、実践課題を設定しいくつかの具体的取り組み事項を検討しその取り組みについて自己評価を行った。

* 年度末自己評価結果別紙参照

(2) 教員による自己評価結果からの考察と来年度に向けての改善策について

①「確かな学力を身につけた子ども」について

・分かる授業の充実を図るための教師の教材研究により、自力解決をし、分かる喜びを児童が実感しているようだ。

・児童の実態に合った課題や教材を工夫し、体験的・作業的な作業を積極的に取り入れ、児童の学ぶ意欲を大事にすることができた。

・ICTの必要性は実感しているが、授業中での効果的な活用方法についての教師自身の研修が不十分であり、十分に指導に生かすことができなかった。

・今日学んだ学習の更なる習熟を図るために、基礎基本の徹底を図ることができたが、学んだ学習を発展・深化させた自主勉強の徹底には至っていない。

・子どもや保護者の家庭学習に対する意識が高くないので、学校として「家庭学習の手引き」を家庭に配布したり、HP上に掲載したり、啓発の手立てを考える必要がある。

<改善の方向性>

○ ICTを活用した効果的な指導方法

○ 子ども自身が家庭学習を進んでしようとするような動機付けの方法

②「心豊かな子ども」について

- ・朝の歌が季節や時期に合っているのがよかった。
- ・学級文庫の入れ替えが不十分だったので、日にちを決めて一斉にする等入れ替えの方法について考えていく必要がある。
- ・朝の活動で読書活動が2回は入っているものの、プラス評価が70%と高くなかったので、読書活動をもっと進めていく必要がある。
- ・あいさつの指導はできているが、児童の行動になかなか表れていない。
- ・全校に落ち葉拾い等呼びかけ実施することができた。ボランティア活動のきっかけとしてそのような方策は必要であると感じるが、ボランティア活動を強制せずに児童からできるようにするにはどうすればよいのか今後の課題である。

<改善の方向性>

- 読書活動の充実
- ボランティア活動のさらなる推進と動機づけの方法

③「心身ともにすこやかな子ども」について

- ・体育委員会や運営委員会の様々な企画を中心に、楽しんで運動に取り組める機会を多くつくったり、外遊びの奨励をしたりすることができており、休み時間に外遊びをする児童が多く見られた。
- ・体育設備について、ボールなどの備品が不足していることがあったので、さらに環境整備を進めていく必要がある。
- ・体力100日アップ作戦を20日作戦と短期間で取り組めるように改善を図ったが、取り組みへの意識が低かった。
- ・食育の日（ゼロリンピックなど）を中心とした給食を残さず食べるはたらきかけにより、児童の残さず食べようとする意識が高くなっている。
- ・学級において防災について取り上げる機会が少なかった。（・朝会で全体に防災の話をする場をつくる。・オープンスクールで学年に合わせた防災の授業をしたり、講演会を行ったりする。・予告のない避難訓練を行う。）等により防災について取り上げる機会を増やしていく必要がある。

<改善の方向性>

- 体育の授業をより行いやすくするための環境整備
- 「体力アップ20日作戦」の意識を高める手立て
- 様々な教育活動の中での防災教育の推進

④「一人一人に応じた特別支援・生徒指導」について

- ・先生に相談できると答える児童の割合が高く、また学校生活を楽しく過ごしている子どもが多くみられた。
- ・「月に1回程度、休み時間や学級活動でクラス全体で楽しく活動する」のプラス評価が、前期と比べて20%以上アップしている。
- ・掃除に取り組む姿勢（静かに掃除 放送や音楽を意識していねいに掃除）の面で、児童の自己評価が高いような気がする。また、掃除のスタートと終了時間があいまいになってしまっている。（給食に左右されてしまっている等）
- ・掃除道具（ほうき 雑巾）の使い方の指導、また掃除道具の見直し（もう少し使いやすいほうき等）を考えることも必要である。
- ・トイレのスリッパの使い方がよくないので、継続指導と置く場所の視覚化等の手立てが必要である。

<改善の方向性>

- じっくりと掃除に取り組む姿勢（開始と終了時刻）
- トイレのスリッパの使い方（継続指導と改善の手立て）

⑤「保護者・地域に信頼される学校づくり」について

- ・どの項目においてもほぼよくできていた。
- ・学校だより、学年だよりを発行することにより、学校の教育活動を発信することができた。HPのQRコードをつくったのもよかった。しかしQRコードをつくっても、その効果があらわれているのかどうかははっきりしない。（アクセス回数のチェックが必要）
- ・ゲストティーチャーを招聘しての就労タイムや生活科の実施により、今年も地域に根ざした教育活動を推進することができた。しかしゲストティーチャーの方が高齢化してきており、現在の活動

がいつまで続けられるかが課題の一つである。

＜改善の方向性＞

○HPのさらなる充実

○人材（ゲストティーチャー）の新たな発掘と総合的な学習における新しい単元開発

⑥「教職員研修の充実と協働体制の強化」について

- ・Eラーニングやチーム福島としての協働の体制がしっかりととれており、教職員のまとまりがある。
- ・今後、ICTを活用した実践研修、授業での活用方法等の研修や道德・外国語活動の評価等についての研修をする必要がある。
- ・研究授業時における学級児童の管理について難しくなった現状がある。

＜改善の方向性＞

○道德・外国語活動の研修

○教科領域をまたいだテーマをもった研修

○効率よく深まりのある研修

5 学校関係者評価と改善方針

これらの結果及び改善の方向性をもとに、学校評議員の方々からご意見をいただき改善方針等の検討をした。来年度、上記改善の方向性ととともに、次の方針をもとに学校改善に努めていき、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成をめざしていきたい。

改善方針

・学校へ行くのが楽しいと感じている子どもがとても多く、学校は、授業時間休み時間問わず活気にあふれている。一方で自分の考えを進んで言えない、困ったことを先生に相談できない子どももいる。誰もが学校が楽しいと感じ、誰もが進んで発言できるようになるために、今後も児童理解に努め、温かい雰囲気づくり・言語活動の充実等に取り組んでいく。

・課題である読書習慣の形成、防災意識の高揚のためには、家でも読んでみたい、家の人と話してみたいと思えるようなきっかけづくりを学校で仕組んでいくことが大切である。今後、図書や防災について取り上げる機会を増やしたり、子どもに興味をもたせるような教師の働きかけや環境整備等の手立て、保護者への啓発により、学校と家庭が一体となった読書習慣の形成、防災意識の高揚をめざしていく。

・地域の方々の見守りや立哨等により子どもたちは安全に過ごすことができているが、学校内外において落ち着いて安全に過ごすための規範意識はまだ弱い。各種安全教室や全職員共通理解のもとでの指導の徹底により規範意識の向上につなげていく。

・外遊びをする子どもや体育学習を楽しみにしている子ども、課外体育に参加する子どもが多く、好き嫌いなく給食を食べる子どもも増えてきており、元気いっぱい活動ができている。一方で夜寝る時間が遅く、睡眠不足気味の子どもや朝から眠そうな子どももいる。保護者との連携や啓発を今後も推進していくことで基本的な生活習慣の改善を図っていく。

（*児童・保護者の意識調査結果やそれらの考察を含めた詳しい学校評価についての報告は、学校ホームページに掲載する予定）